



産婦人科主任診療部長 藤井光久

## childbirth 出産の痛みを 大きく軽減「無痛分娩」

近隣では市立川西病院だけが実施  
痛みを抑えて、子どもを慈しみながら産む

「皆さんは『無痛分娩』という言葉をご存知でしょうか。関東では比較的広まっていますが、関西ではあまり浸透していないため、知らない人も多いかもしれません。関西でこの方法を取り入れている病院は少なく、近隣では当院だけです。」そう話すのは産婦人科の藤井光久主任診療部長。

市立川西病院では脊椎の中の硬膜外腔という部分に細い管を挿入し、麻酔薬を注入する硬膜外麻酔という方法を実施しています。

これは無痛分娩の標準的な方法として長い歴史があり、陣痛や産後処置、後陣痛など、出産に伴う痛みを大幅に軽減でき、副作用もほとんどないのが特徴。同病院では23年度から開始していて、月に6例程度、合計で約300件の出産例があります。

「痛みを耐えて出産することで、愛情が深くなるという考え方もありますが、痛みを抑えて、産まれてくる子を慈しみながら分娩することで、愛情がより深まるとも言われています。それに、痛みで取り乱すこともなく、落ち着い



て分娩できることや、体力を温存しながら分娩できることは大きなメリットではないでしょうか」

無痛分娩を始めるタイミングの画一的な基準は決めていないと藤井さん。

「どうしても痛みを耐えられないときだけ助けてほしいという人もいれば、痛みに弱いので早く始めてほしいという人もいらっしゃいます。痛みを感じ方や出産に対する思いは人それぞれですから、可能な限り個人の希望を尊重したいと考えています」

同病院では費用の負担も減らそうと、今年度、分娩費用を引き下げました。



「無痛分娩で出産された皆さんは、とても満足されています。次に出産するときも、希望する人が多いんですよ。一般的な分娩より割高になりますが、ぜひ検討してもらいたいですね」

また、元気な赤ちゃんを産むために、普段の健康管理にも気を付けてもらいたいと藤井さんは話します。

「女性特有の子宮がんは、毎年約2万人がかかり、約6000人が亡くなっています。初期の段階で発見できれば、簡単な手術で治る病気です。20歳以上の人は年に1回必ず検診を受けるようにしてください」